

5. 日米の比較

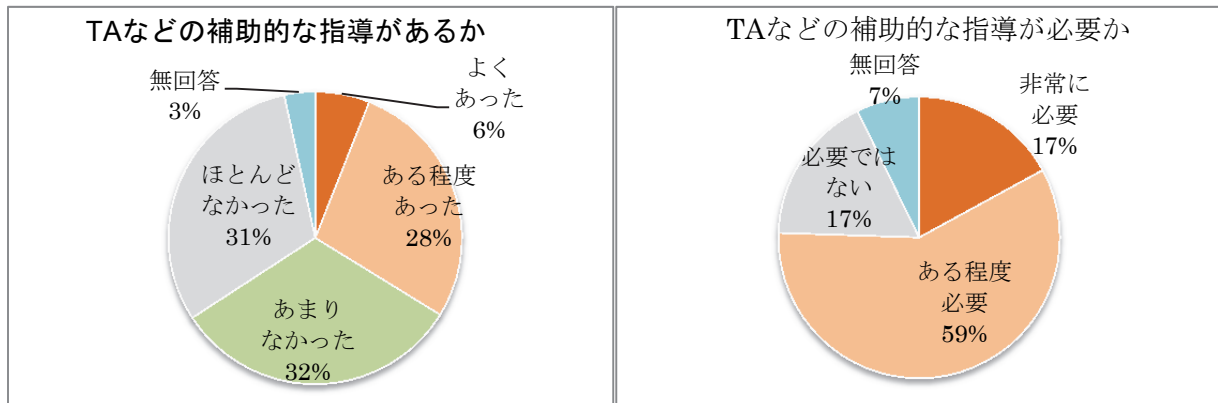
- ・アメリカの教員は「個人技」の教育ではなく「チーム」により教育を提供し，TAなどをマネジメントし，学生に多様な手段でアプローチし，学習成果の向上を図る。

	日本（国立大学の例）	米国（UCバークレーの例）
○年間延べ学生数	約5,400名	約4,300名
○履修システム	分散履修（90分×週1回）	集中履修（60分×週2，3回）
○教育方法	講義中心，教員個人の力量	演習中心，職員を含む組織力
○教育支援システム ・TAの人数 ・教育支援職員等の人数 ・合計教育スタッフ数	<基礎化学I>の例 30人 4人 74人	<Chemistry 1A>の例 90人 66人 158人
○スタッフあたり学生数	75人	27.2人

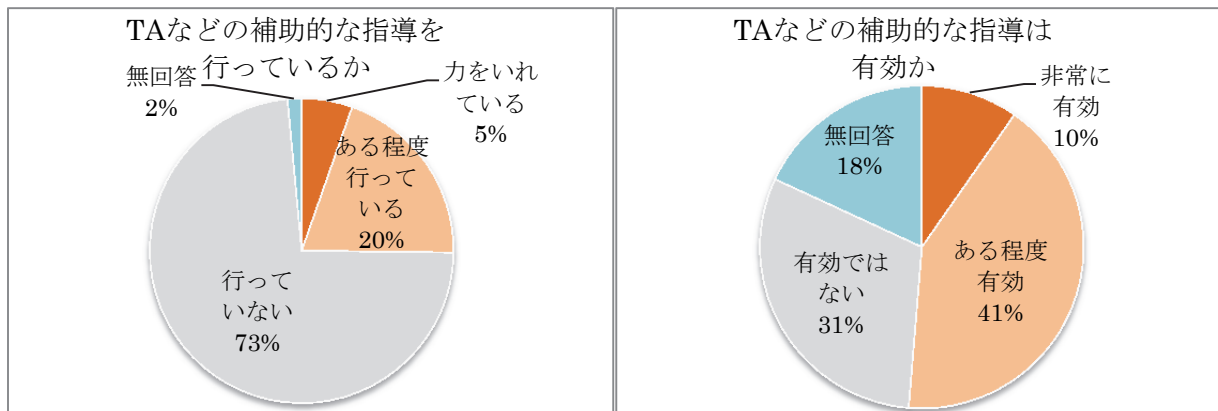
（小笠原正明氏「研究大学における理系の基礎教育とティーチングアシスタントの役割」より作成）

- ・我が国では，実際の指導を受けた学生は3割で，3/4の学生が「必要」と回答。また，教員からの評価が低く，その背景に，教育の体系化や授業の標準化がなされていないことが挙げられるとの指摘がある。

○学生への調査



○教員への調査



（「全国大学生調査」2007年，「全国大学教員調査」2010年，東京大学 大学経営・政策研究センター）